

平成25年度東北ブロック会議を開催

平成25年度東北ブロック会議は、平成25年11月23日に仙台市青葉区にある、ホテルJALシティ仙台において開催し、同窓会本部からは、お忙しいところ小野口勝巳会長においでいただき、各県支部役員は、会長と膝を交えて歓談でき大変喜んでおりました。改めてお礼申し上げます。

さて、東北ブロックは各県共に新しい卒業生もなく、維持会員数が年々減少し、深刻な事態になってきております。そんな中でのブロック会議の開催は、日頃の鬱憤を晴らしながら将来の同窓会のあり方について熱心に討議がなされました。

今回の会議は、なんとと言っても、麻布大学創立125周年記念事業に関する寄付金についての話題が大方を占めてしまいました。

最初に小野口会長から、近況報告と記念事業に関する進捗状況について詳しくお話があり、その後はフリー討議で各県の対応方について話し合いましたが、過去の記念事業におけるあり方を踏まえ、今回の募金目的が曖昧である旨の意見が多く出されました。

過去に「同窓会館建設」という大きな目的を持って1人3万円の募金を集めたことがありましたが、結果的に同窓会館は建設されず、募金を集めた支部役員は非常に辛い立場に立たされたことが忘れられないとのことでした。

そんな中で、今回の募金目的がはっきりせず、新食堂の周辺設備施設資金となっており、同窓会として寄付を募って行うものなのか「まったく理解できないとの意見で集約されました。

そこで、東北ブロックとしては、同窓会も参画して募金活動を行う以上は、目的を「目に見える形の有るものを明確に定めてほしい」というものであります。開校創設者の銅像を造るのも大きな事業になるのではないかと、いずれにしても現状の方法では募金活動に支部同窓会としては協力できない、大学が単独で募金事業を行い、同窓会は後援とすることにしてはどうかとの意見もありました。しかし、小野口会長は現行案をもう少し見極め、同窓会としての意見をもっと出したいとの話があり、「目に見える形の有るものを明確に定めてほしい」と言うことは理解できるとのことから、東北ブロックとしては会長の意見を尊重して、実現できるように本部同窓会への要望として改めて会長に申し入れをいたしました。

長時間にわたり、色んな意見交換が出来ましたが上記のような要望の形が取れたことに事務方としては安堵したところであります。その後は各県の課題や現状報告がなされ、秋田・岩手県支部が交流事業をしたこと、宮城が過去に秋田と交流事業をした旨や「同窓会」という名称ではなく「校友会」「校友の集い」などの名称で総会等行っている旨が報告されました。

会議終了後、宮城県支部の川向支部長の乾杯で懇親会が始まりました。しかし、大方の話はやはり125周年記念事業のことが中心で、過去の募金活動で辛かったことが話題を盛り上げていました。以上簡単に取りまとめ報告といたします。



東北ブロック長・青森県支部
長 竹内重正
(25/12/吉日記)